

千葉県 AALA 版
2023年5月号
「与那国島の人々の発言」

前略

与那国島の人々は、PAC3 の配備初め、今後電子戦部隊、地对空ミサイル部隊の配備が計画されていて、自衛隊が増強されることにとっても不安を感じています。

与那国島の公民館で交流した島の人々の思い、聞いた声を、ほぼそのままお伝えしたいと思います。(一部言葉を補足。文責:上田)

.....

**(一) 基地建設で経済は潤わず、失ったものはとてつもなく大きい
与那国の明るい未来を願うイソパの会 狩野文江(民宿経営)**

寝耳に水の自衛隊誘致

この公民館で住民説明会が開かれた時、反対の方がたくさんいました。私たちは、なぜ基地建設という事態になったのか、町長に経過を説明してほしいと言いました。

自衛隊からの説明ではなく、町長に聞きたいんだと。私たちが基地建設を知ったのは新聞紙上でした。基地誘致の署名活動が行われ、5百数十人の署名が集まって、「基地の誘致が決まった」ということで、寝耳に水でした。当時の島の人口が1800人くらい、住民全体に凶らないでこんな重要なことを決めていいんですか、ということで説明を求めました。

基地があることで島を変えてしまう、許せないと思って、誘致撤回署名をして撤回させようと頑張ったのですが、残念ながら基地ができてしまいました。

なぜ、基地建設に反対するのか

私自身、なぜ反対しようと思ったのかというと、私は与那国で生まれ育ち、結婚して普天間基地の近くに住んでいましたが、ニューヨークのテロ事件があった時、翌日にはすぐ"ここ"(与那国島)にきて、「今度は沖縄が狙われるんじゃないか」と、基地があることの恐怖心かられました。あの時、沖縄ツアーが全部キャンセルになって、3年間沖縄経済は衰退したと言われていま

もう一つ、戦争中与那国に日本軍がいて、空襲があったことを小さい頃から聞いて育ちました。アメリカ軍は、どうしてこんな小さな島が分かったんだろうと不思議に思っていました。

そして、大きな要因は何といても、自衛隊基地誘致の話がでる前の年、2007年6月に(米海軍は乗員の休養と友好親善のために寄港を要請。これに対し、当時の仲井真県知事は自粛を要請し、外間町長は反対を表明する中)米軍の掃海艇が2隻来たことです。

「きれいな小さな祖納(そない)港に米軍が来た」というのでいてもたってもいられなくて抗議しました。島の人だけではなく、島外からもたくさんの方が来て反対しました。

その後(2011年、インターネットの内部告発サイト・ウィキリークスが07年6月27日の外交公電を公開して)、当時のケビン・メア沖縄総領事が「台湾有事の際、与那国島が機雷除去作戦の拠点になりうる」としていたことが報道されました。

自衛隊基地を誘致すればどうなるか、日米安保で米軍が来ることはわかるはずなのに、「島の経済発展のために誘致する」「米軍が来れば一緒に反対する」と言っていました。

今になって元町長、元議長など責任を負うべき人たちが「米軍が来るとは思わなかった。戦車がやって来るとは思わなかった」というのはとても浅はかです。(2022年11月に、日米共同統合訓練、キーン・ソード23が行われた)また町幹部は「経済が潤ってきたとは言えない」とも言っています。

自衛隊誘致で失ったものの大きさ

自衛隊を誘致したことで失ったものはとても大きいです。宇良部岳山頂にあるレーダー基地は、個人の元牧場でした。南牧場も、当時は馬や牛もいる牧場でした。

丁度自衛隊を誘致すると言っていた頃、景観条例を制定した時でした。「景観条例で自然を大事にすると謳いながら、自然を破壊するようなことをしてもいいのか」と言いましたら、「どうなるかわからないから様子見なんだ」と。

ミサイル基地をつくらせない

政府は敵基地攻撃まで言い出している状況で、当時は賛成したけれどもこの事態はまずいと思っている人たちと一緒に早く止める動きをしないとイケないと思っています。しかし議会はシェルターとか避難基金とかまるで戦場に

していく準備しかしていません。すごく情けないです。与那国議会としてミサイル基地は止めてほしい、と要請したいと思います。

なかなか島だけでは変わらない。政権を変えないことには変わらない。右左関係なく、自公以外に投票して、軍拡の流れを止めていただきたい。野党連合で、政権を変えるつもりでやっていただけたらと思います。

(二) 軍隊は住民を守らない

池間竜三(イソバの会)

私はずっと島を離れていて、退職して母親の介護のために島に戻ってきました。

こんな小さな島にも軍隊

この島は、第二次世界大戦の時から日本 on 海軍の見張り所が宇良部山の頂上につくられ、10名ほどの兵隊がいました。陸軍も、現在の製糖工場の西側、空港寄りの所に数十名の兵隊がいました。そして、戦争中には3つの空襲がありました。

一つは、1944年10月13日、久部良集落、現在フェリーがつくところです。なぜ久部良集落かということ、そこには大きなカツオ節の製造工場があって、大きな煙突が立っていました。それが軍需工場と思われて攻撃されたんだろうと、島の皆さんはおっしゃっています。写真を見るとなるほどわかります。

もう一つは宇良部山空襲。翌45年の1月14日と2月14日の2回あって、一名負傷(後に死亡)、一名亡くなっています。三つめは、それより前、1月3日にカツオ船が漁に出て空襲にあい、27名亡くなりました。当時、油がなくて漁に出られず船は陸揚げされていたのですが、軍命で食料調達に出て空襲を受けたのです。

戦死より多かった戦争マラリアの死亡

与那国では、181名の方が戦地で亡くなり、戦争マラリアではそれより多くの方が亡くなっています。宇良部山の空襲があって、これは大変だということで軍が避難命令を出し、2月の終わりには避難が終わりました。

ティンダバナの崖の下とか、大きな岩の陰とか、自分の畑の近くの藪の中とかに避難するのですが、そこはマラリアを媒介するハマダラ蚊の生息地でした。

もともと島の中央部に人が住んでいたのですが、最終的に沿岸部に住むようになったのには、流行病などの要因があったのではないかとされています。そこに避難させ、さらに当時栄養状態や生活環境が悪いこともあって、戦死した方の約2倍、366名の方が亡くなりました。

島民の安全は戦争しないこと

この島に戻って介護しながら思ったのですが、島民の安全は全く考えられていない、非常にあいまいだと。全島避難というけれど、いつ、誰が、どのように避難するのか、例えばうちの母親はどうするのかと考えたときに、全く計画できないわけです。

県が出してきた一日に船で1000人、飛行機で300人石垣まで輸送すると言うが、フェリーは150人定員で石垣まで片道6時間だから何往復するのか、しかも晴れの日ばかりではありません。どうするのか。そう考えたら、戦争しないことが一番だということが結論です。そうすることが政治家の役割です。

(三) 島づくりは平和づくり

ゆいピースよなくに 山田和幸

「島づくりは平和づくり。東アジアの国々との交流こそ島の生きる道」この間、いろいろなことが起きました。国はいろんなシナリオを出してきてたのですが、その特徴は3つあると思います。

1. 米軍は何をしているのか全くわからない

一つは、与那国に自衛隊が開設されて6年目にして、米軍が駐留しました。メディアがたくさん来て、公道の戦車や私も参加した避難訓練の様子を伝えたものはたくさんありました。しかし、一部地元メディアは報道しましたが、米軍の動きを報道したものはほとんどありませんでした。

米軍は、2022年11月1日~12月18日まで、安保3文書が出た2日後まで駐留して、その期間中ずっと駐屯地で共同訓練をやっていました。米軍が来るということは、もっと強調されなければいけない。日米地位協定があって、何が持ち込まれ、何がなされているのかわからないからです。政府もわからないと言っています。ですから、米軍の動きをもっと監視しないといけない。

私たち自身も、どうしたらいいのか考え硫黄島の二の舞にしてはいけない行動していきたいと思います。

2 . 島民は追い出される

二つ目は、島民の島外への避難です。疎開もつとえば島から追い出されるんです。現実に2022年9月に町条例ができ、島民は渡航費をもらって好きな所に行って生活でき暫くその生活費も受けられる、家やお墓が壊されたらそれを復旧するお金を出すと議会で答弁しました。今まで、人口を増やすために自衛隊が来たらしいと言っていました、今度は逆に島の人が島から出ていくのを奨励するというのです。(系数)町長は、2月那覇で国にお金が足りないから出してくれと言っています。初めから計画していたのです。この3月議会で具体的な金額の基準を出し、9月議会で基本条例を決めたら、町民に知らせると言っています。何を言っているのか。

硫黄島がまさに同じです。島民は、44年春から秋にかけて徐々に島から出ていき、最後は軍隊に徴用される男100人ほどが残りました。すぐ帰れると思いましたが、今どうですか、誰も帰ることができず、日米の軍事基地になっています。

3 . 東アジアの国々との交流が生きる道

三つ目は、与那国にはコンビニも飲み屋も少ないですが、好きでたくさんの人が来るんです。私もその一人で、島に根付こうと思っています。でも、ある人が、ふっとした拍子に3ヶ月後ここにいるのだろうか、虚しくなる瞬間があるというと言うんですね。多くの人がそう思っているんです。

でも、この島には17年前に「自立ビジョン」(写真下)という島づくりの具体的なプランができています。自立・自治・共生という3つの柱からなっていますが、自衛隊が持ち込まれて梯子を外されました。でも、この文書は残っていて生きています。

4 . 平和の島づくり

これに新しい知恵を肉付けしてやろうじゃないかという機運が今出てきています。島づくりは、すなわち平和づくりです。

国は、ここに基地をつくって、これまで交流してきた東アジアの国々と対立させようとしています。僕らは、犠牲者ではなく加害者であることを沖縄の人はみんな知っています。隣人同士、殺し殺される関係には絶対になりたくない。ですから、数カ月先に中国、台湾と交流したいと計画を具体的な事実を明らかにして世論に訴える練っています。来年も大きなとりくみを計画中で、積極的な交流をしていきたい。大変だと思います、難しいと思いますが、この島には先人の知恵がいっぱいあります。教えてもらいながらやっていきたいと思っています。

先ほど、平和づくりと言いましたが、ただ反対、引き伸ばしだけではだめです。多くの人とつながるには、人々の暮らしが豊かにならないとだめです。この島は、否応なしに東アジアの国と付き合わないとなり立ちません。与那国は東アジアの玄関口、日本の端っこではありません。

(四)「具体的な事実を明らかにして、世論に訴える」

金平茂紀(ジャーナリスト)

与那国島には、2011年4月10日以来です。当時お会いした方が、自衛隊に反対して、地域で孤立している苦しい胸の内を明かしてくれたことを覚えています。外の人が連帯ということは簡単ですが、ここに移住してきた人の話や、ここに住んでかつて反対だった人が賛成にまわった、なぜそうなったのかをきちんと聞くことが大事だと思っています。

昨年ウクライナを取材しましたが、まさか自分たちの足元で堂々と公道を装甲車が走るとは思ってもみませんでした。先日石垣島でもそうでしたが、あれは「やるぞ」という確信犯です。それらに対して何ができるか、具体的にしないと駄目だと思っています。

ここの町長は、日本会議が出している「日本のいぶき」で対談し、10年ばかりで与那国を自衛隊の島にしたと自慢話をしています。具体的な事実を明らかにし4ていかないとだめです。それがメディアの仕事。

この地域には八重山毎日がありますが、島に常駐記者がいません。新聞は今経営が大変で、何かあった時だけ石垣島から来て、通常は電話取材です。ここの町長は取材を拒否しています。本当にひどい。そういう具体的なひとつひとつを暴いていかないと変わらないです。ウクライナのことはみんな自分のことのように言うけれど、自分の足元のことほとんど知られていません。

今回12年ぶりにきて、取材をして、自分のやれる範囲でここのことを考え続けて行きたいと思っています。(飛び入り参加)